

令和6年度 広島平和記念式典 小中学生派遣事業 感想文



広島平和記念公園（広島市）原爆ドーム前にて

磐田市

《目次》

広島に響く平和の鐘	磐田第一中学校	伊藤 遼一… 1
今年も春が来ますように	城山中学校	白井 志織… 1
平和を願って	向陽中学校	菅原 杏月… 2
戦争を起こさせないために	神明中学校	永井 陽大… 3
平和を実現するために	南部中学校	磯部 祐三… 3
僕たちにできること	福田中学校	山中 秀斗… 4
結んでいこう	竜洋中学校	日内地 春翔… 4
平和の願いを黙祷に込めて	豊田中学校	佐藤 麻乃… 5
僕にできる努力	豊田南中学校	大場 健跳… 6
小中学生派遣事業を終えて	豊岡中学校	松島 優聖… 6
平和への一歩	磐田東中学校	西村 一希… 7
広島での経験を生かすために	磐田北小学校	鈴木 遥太… 8
桜や人が思いをつなぐ	磐田中部小学校	引馬 蒼… 8
小中学生派遣事業に参加して	磐田西小学校	鈴木 潤… 9
平和記念式典に参加して	磐田南小学校	疋田 真桜… 10
私達の手で平和にする	東部小学校	辻 一花… 10
平和へ	大藤小学校	山田 悠翔… 11
ヒロシマから教わったこと	向笠小学校	馬淵 菜希… 11
平和のためにできること	長野小学校	西川 葵… 12
広島へ行った時の感想	岩田小学校	河野 颯太… 13
平和の大切さ	田原小学校	川端 京楓… 14
平和	富士見小学校	笠井 百珠… 14
行って、感じて、見た平和	福田小学校	川野 琴子… 15

平和への思い	豊浜小学校	片井 美咲… 15
広島への派遣事業で知ったことと感想	竜洋東小学校	牧 剣芯… 16
広島とリトルボーイ	竜洋西小学校	神田 尚輝… 17
平和とは何か	竜洋北小学校	日内地 聡汰… 17
ぼくと広島	豊田南小学校	田中 湊徠… 18
平和を実現するためには	豊田北小学校	佐藤 祐… 18
平和の大切さ	青城小学校	大野 匠太… 19
平和のために私たちができること	豊田東小学校	宮城 結衣… 20
平和を願って	豊岡南小学校	清水 智咲… 20
私にできる第一歩	豊岡北小学校	大西 香歩… 21

（凡 例）

- ・本書は令和六年度広島平和記念式典小中学生派遣事業の参加者の感想文をまとめたものです。
- ・誤字・脱字などを除き、原文のままで掲載しています。

広島に響く平和の鐘

磐田第一中学校 伊藤 遼一

皆さんは広島市にある原爆ドームを見たことがありますか。私はこの度、広島平和記念式典小中学生派遣事業に参加し、原爆の恐ろしさや平和の尊さをこの目で見て、肌で感じてくることができました。

この式典は私達にとって平和の尊さと戦争の悲惨さを改めて感じさせる大切な機会です。毎年八月六日に行われるこの式典では、一九四五年に広島に投下された原子爆弾によって犠牲となった方々を追悼しています。私は、二度と同じ過ちを繰り返さないという強い決意を抱きました。そして、この式典に世界中の人々が集まって平和を祈る姿に、深い感動を覚えました。式典が行われる平和記念公園には、多くの人々が年齢や国籍を問わず「核兵器のない世界」を目標に心を一つにしています。眼の前には原爆ドームが静かに立ち、その直ぐ側には、色とりどりの折り鶴が飾られた記念碑がありました。実際に見ると、戦争の悲惨さと平和の尊さを訴え続けていくことがはつきりと伝わってきました。式典中、参列者の方々は黙祷をささげ、被爆者の証言に耳を傾けました。その瞬間、広島に落とされた原爆の恐ろしさや、その後の苦しみがどれほど大きなものだったのかを想像し、胸が締めつけられる思いがしました。式典を通じて、被爆した方々がどれほどの想いを持って、この体験を語り継いでいるのか、そして、それを受け止める私達の責任の重さを改めて感じまし

た。式典後に訪れた広島平和記念資料館では、焼け焦げた衣類や生活用品がそのまま展示されており、原爆がどれほどの悲劇を招いたかを痛感しました。

今回、広島平和記念式典に参加して、平和の尊さについて改めて学びました。これから私達に何ができるかを考え、未来に向けて平和を守り続けることの大切さを広く伝えていきたいと思います。

今年も春が来ますように

城山中学校 白井 志織

アメリカでは原子爆弾が何万もの命を救ったと言われていることを私は知りませんでした。第二次世界大戦が長期化し、膨大な戦死者が出たアメリカでは、原爆によって多くの命が救われたという考えにより原爆開発の支持率が今でも五十六パーセントと半数以上を占めています。大国にこのような考えが浸透しているようでは、核兵器ゼロの世界は夢のような目標になってしまいます。そこで、唯一の被爆国である日本の声を届け、原爆の悲惨さや恐ろしさを一人でも多くの人に知ってもらう必要があるのではないのでしょうか。

今年の夏、私は初めて広島へ行き、被爆者の話を聞きました。一九四五年、七十九年前の広島には建物が立ち並び、人々の笑顔や活気が詰まっていました。しかし、たった一発の原

爆投下により建物は破壊され、多くの命を奪っていきました。それだけでなく、生き残った人たちの生きる意味さえも奪ってしまったのです。あまりにも悲惨な出来事は生きることや悔やむ声があがる程でした。私は「この悲劇をもう二度と繰り返してはならない。」という被爆者の平和への強い思いを受けとることができました。

二〇二四年、被爆者の平均年齢は八十歳を超えました。悲劇を繰り返さないために被爆者の思いを繋ぎ続けることは被爆国の使命だと感じました。

私の住む磐田には広島の安田女子学園からいただいた被爆桜が力強く咲き誇っています。原爆の熱風と凄まじい衝撃に耐え抜き、私達に生きる希望を訴え続けています。この被爆桜がこれからも磐田で咲き続けてくれることを願うとともに、世界に被爆桜が教えてくれる原爆の悲惨さや被爆者の願いも広がることを願います。

平和を願って

向陽中学校 菅原 杏月

私は、今回の広島派遣で多くのことを学びました。初めは、戦争について知ることや原爆資料館の中を見学することに対して不安と怖さがありましたが、勇気を出して参加してよかったと思っています。

私の印象に残っていること一つ目は、一日目の平和記念公園での活動です。公園内の案内をしてくださった方のお話の中で「平和の灯」についての説明がありました。原爆犠牲者の霊を慰めるとともに、核兵器の廃絶を祈って建設されたそうです。昭和三十九年八月一日に灯された炎は、今も消えることなく燃え続けています。世界中から核兵器がなくなるときに炎が消されると聞きました。平和の灯だけでなく、公園内の一つ一つの建造物に深い意味が込められていました。また、ガイドの方が多くの情報を懸命に伝えてくださるのを見て、私も広島で学んだことをたくさんの人に伝えていかなければいけないと思いました。自分にできることを進んで行っていきたいです。

二つ目は、被爆桜についてです。広島と磐田のつながりの一つであることを知りました。被爆したにも関わらず今も元気に育っているところを見て感動しました。向陽中にもあると教えていただいたので探してみたいと思います。

今回の活動に参加して、改めて平和とは何かを考えました。誰もが平和だと思えるような世界になるようにしたいです。来年も、原爆や戦争の恐ろしさを知ってもらうため広島派遣を続けてほしいと思いました。貴重な体験をさせてくださりありがとうございました。

戦争を起こさせないために

神明中学校 永井 陽大

僕は、八月五日、六日に平和記念式典派遣団の一員として広島を訪れ、戦争の恐ろしさや、平和の尊さについて学んできました。その中で、平和記念式典のことが一番心に残っています。式典には、日本の人はもちろん、世界中からもたくさんの人が参加していました。日本から世界中に平和の思いが伝わっているのだと思いました。広島市長や広島県知事、内閣総理大臣などの話からは、もう二度と戦争を起こさせないという、強い意志を感じました。そして、こども代表の「願うだけでは平和は訪れません。」という言葉が心に残っています。ただ平和を願うだけではなく、相手の意見を認め合い、仲間と協力し、平和な世界をつくっていくために努力することが大切だと感じました。また、僕たちがいつも当たり前に行っていることはとても幸せな事だと気づきました。家族と食事をしたり、学校で友達と楽しく会話をしたりと、僕たちにとっては当たり前の事かもしれませんが、戦時中の人々は当たり前ではなかったということがわかりました。そして、この戦争のことは絶対に忘れられてはいけません。この戦争のことを知らない世代に戦争の恐ろしさを伝えること、そして、もう二度と戦争を起こさせないようにすることが僕たちの仕事だと思います。平和を実現することは簡単なことではありません。僕たちに将来、何ができるかもわかりません。しかし、これからの未来を背負っていくために、僕たちにできる

ことを最大限やっていきたいと思います。

平和を実現するために

磐田南部中学校 磯部 祐三

「願うだけでは、平和は訪れません。色鮮やかな日常を守り、平和をつくっていくのは私たちです。」

これは、今回の広島平和記念式典のこども代表の言葉です。この言葉を平和記念公園で聞いた僕は、衝撃を受けました。

今までの僕は、本当の平和とはどんなことなのか、本当に平和を実現させるのはどんなに難しいことなのか、よくわかりませんでした。原爆が落とされたあの日、あの瞬間まで広島は現在の磐田市と同じように、緑豊かで美しく、人々の笑顔で溢れていました。しかし、たった一度、原爆が投下されたことにより、緑豊かな木々は破壊され、人々の笑い声は一瞬で、悲鳴へと変わりました。そんな状況を平和記念資料館で写真としてみました。そこには、僕とあまり歳の変わらないような見た目の男の子の皮膚が焼かれ、助けを求める姿がありました。その写真を見た時、一番に込み上げてきたものは、「かわいそう」という感情ではなく、男の子をこんな状態にしたアメリカへの憎しみでした。今回の派遣でこのような体験を学校代表としてさせていただいた以上、その写真や写真を見て思ったこと、考えたことを忘れてはいけないと思い

ます。そして、生きるということのありがたさ、平和を実現するためにどんなことをすれば良いのかなどを考え、行動していかなければなりません。

今もなお、世界では戦争が続き、平和とは程遠い状況となっています。ですが、そんな状況でも平和実現への道のりを一歩ずつ進めていくことは、僕たちにもできると思います。それが、唯一の被爆国の国民である僕たちの使命です。願うだけでは、平和は実現しません。これからは僕が先頭に立ち、行動に移していこうと思います。

僕たちにできること

福田中学校 山中 秀斗

僕は、二〇二四年八月五日に磐田市広島派遣団のみんなと一緒に広島に到着した。そこには、きれいな青空、高いビル、たくさんの人で賑わっていた。そんな広島をみて、七十九年前の広島は、どれだけ「地獄」だったのか僕には想像できなかった。

「願うだけでは、平和は訪れません。色鮮やかな日常を守り、平和をつくっていくのは私たちです。」という小学生の平和への誓いの言葉が僕の心に響いた。平和で色鮮やかな日常を送るために、自分の行動が本当に正しいのかを考え直したり、人の意見を聞き、自分が思ったことを相手に伝えたりす

ることが僕たち学生でもできることであり、大切なことだと感じた。平和記念公園をボランティアの方たちと探求しているときに聞いた、「なんで私だけ生きてしまったのか。」という言葉から、生きたくても生きられない人が多くいたけど、生き残った人は、地獄の日々を送らなければいけないという、戦争の悲惨さが理解できたような気がした。

この広島派遣で、戦争の悲惨さを自分の目で見て感じることで、平和な日常を送るには、一人一人が行動に移すことが大切だということを感じた。派遣で得たことをたくさんの人に広め、僕たち若い世代が鮮やかな日常に向けて、積極的に行動していきたいと思う。

結んでいこう

竜洋中学校 日内地 春翔

僕は広島平和記念式典に行くために八月五日と六日に広島に訪れました。僕が広島に足を踏み入れた時に驚いたことがありました。それは、思っていたよりビルがたくさんあり、発展していたことです。かつて原子爆弾が落とされ、「灰色の世界」と呼ばれていた広島ですがこのように発展していたのはなぜか考えるきっかけとなった二日間でした。

僕はまず広島の歴史について学びました。広島はかつて七十五年間草木も生えないと言われていました。ですが、その

中に残った木がありました。その気は被爆樹木といって、今でも広島の人たちに大切にされており、広島には約百六十本もの被爆樹木があるそうです。磐田市にも身近でいうと、かぶと塚公園に被爆桜があります。被爆桜は広島の人たちに、とつても大切にされているものであるため、僕たちも大切に育てていきましょう。また、平和を実現させるために身近なことでできることを僕はこれからしたいと思いました。

僕は広島に訪れて、人は生きているだけで美しいということと思いました。そして、生きている限り平和を作っていくかなければならないと思いました。広島の人たちは、当時の世界を一変させるかのように今はとても発展していました。それは、広島の人たちの努力と平和のための想像力などがあつたからだとい今は思います。

平和の願いを黙祷に込めて

豊田中学校 佐藤 麻乃

「黙祷。」

みんなが一斉に目を瞑ったその瞬間、会場全員の被爆者やそのご家族への祈りを肌で感じることができました。

私は、これまでに何回も黙祷をしてきました。しかし、この短い時間の中で何を思えばいいのか、正直わかりませんでした。しかし、この派遣で様々な場所を訪れる中で、だんだ

んと自分なりの答えを見つけられるようになりました。

まず、我々派遣団は、安田女子高等学校を訪問しました。安田女子高等学校では、被爆当時、被爆したにも関わらず翌年には綺麗に花を咲かせていた桜に生徒が気づき、被爆桜の苗木を全国の学校に贈る活動を始めました。その苗木は磐田市の学校にも贈られ、豊田中学校の被爆桜も、今でも元気に咲き続け、生徒の登下校を見守ってくれています。磐田市に贈られた被爆桜たちが、私たちと原爆の悲劇、そして安田女子高等学校を繋いでくれているのでしょう。私は、この繋がりを派遣団のみんなと一緒に大切にしていきたいと思います。そして、広島平和記念資料館では、今では考えられないほどの当時の悲惨さと、被爆者の生き抜こうとする力強い意志を知ることができました。また、ボランティアのお話を通して、平和を祈念するために設置された象徴物の意味や、原爆の悲惨さを訴えるために、原爆ドームを残す市民たちの努力などを知り、この出来事を後世に伝えていくことが、今生きている私たちの使命だと感じました。

戦争は、一人の力で終わらせることはできません。しかし、私たちみんなで協力することで、ほんの少しでも戦争を最終に導くことができるかもしれません。そしていつか、この世界から核兵器や戦争がなくなり、平和の灯が消せるよう、努力を積み重ねていきます。

僕にできる努力

豊田南中学校 大場 健跳

僕が、広島で最初に見たのは、とても大きい広島駅と、街中を埋めつくすたくさんのビルでした。お好み焼きもとてもおいしく、いろんな人と仲良くなれて、それまでは旅行の気分でした。しかし、安田女子高校の方々の話を聞いて、僕の頭はそれでいっぱいになりました。「七十五年間は草も生えないだろう」と言われていたこと、それに対してたった三日で路面電車が再び街を走ったこと。その他にも多くの知らないことが、驚きとともに僕の頭の中に入ってきました。原爆が落ちた後の、広島の人たちの苦しみや努力を知ったことで、広島街がもつときれいに見えました。平和記念公園のガイドさんの話や、原爆資料館で見たことも含めて、忘れないように、友達や先生などに話していきたいです。

八月六日の平和記念式典では、こども代表の平和への誓いから、僕達は一つの大切な言葉を学びました。「願うだけでは平和は訪れない」という言葉です。世界初の原爆投下から約八十年も経ち、原爆の恐ろしさを知っている人も少なくなり、被爆桜の寿命も近づいていることを、僕は学びました。そして、その歴史を伝えていく努力がたくさんあることも知りました。僕たちは、願っているだけではないのを感じました。小さなことでも行動しなければならぬのです。二度とこんな歴史を繰り返してはいけないうと、僕は二日間で痛感しました。そのためにできる努力を、これからたくさんしていきたい

いです。まずは、広島で学び、感じたことを、しっかり中学校のみんなに伝えられるように、一生懸命資料や原稿を作ります。これも、僕にできる努力です。あの貴重な二日間を、僕は一生忘れません。

小中学生派遣事業を終えて

豊岡中学校 松島 優聖

僕が広島派遣事業で訪れた広島は、僕にとって忘れがたい深い印象を残しました。

特に広島原爆資料館の訪問は衝撃的で、広島原爆資料館で展示されていた資料の数々を見て、僕はかつて数十万人が生活していた場所が原爆によって一瞬で地獄の場所となり、そのかつての栄えある場所だった頃と原爆が落とされた後の頃での街の変わりようには心が痛みました。また展示品の数々からは人類が戦争を絶対に繰り返してはならないことを教えてくれ、戦争のない平和な世界を目指すためには過去の教訓を後世に残すことの重要性を痛感しました。

二日目の広島平和記念式典では、平和への誓いのときの小中学生の二人の言葉に僕はぐっと感じたものがありました。特に小学生の二人の言葉に「色鮮やかな日常を守り、平和をつくっていくのは私たちです。」という言葉がありました。僕はこの言葉に対して確かに一人一人の意識で平和に大きく近づ

くことができるということを再認識することができ、僕にも何か世界が平和になるための第一歩として何かできることはあるだろうかということを考えるきっかけになりました。

自分はこれまで広島原爆の酷さ、戦争の恐ろしさについて社会科の歴史の授業や、家族が話してくれることのみでしか触れることがなく、周りに原爆の被爆者がいなかったため、大まかなことだけしか知識を得ることができませんでした。

しかし、実際に広島にいったことで、実際に目で見て学ぶ事ができたり、かつての自分が知らないような知識を得ることができたりと、自分にとっても他の人にとっても沢山の利益がある、とても貴重な経験だと思いました。

平和への一歩

磐田東中学校 西村 一希

私は、今回の広島派遣事業で、一生心に残る体験をしました。

初日に、安田女子高等学校と広島平和記念資料館を訪れました。安田女子高等学校は、爆心地からたった一・四キロメートルの位置にあり、校舎が倒壊し、生徒、教職員合わせて三百二十八人の命が失われました。その中で唯一残ったものがあります。それは、校庭に植えられていた桜です。公舎が倒壊するような爆風や熱線を絶えたこの桜は、被爆桜と呼ば

れ、未だに毎年満開に咲き誇っているそうです。実際に木の幹に触れ、その太さとどつしりと構えるような姿は、私たちに勇気を与えてくれるようでした。

この被爆桜は、広島県内外六十八ヶ所に苗木が届けられ、ここ磐田市の小中学校や公園にも植えられています。この話を結団式で聞いた私は、広島に行く前に、かぶと塚公園にある被爆桜を見に行きました。枯れてしまった苗木もある中、多くの若葉をつけ大きく成長している姿に驚きました。

次に、広島平和記念公園と原爆資料館を見学しました。被爆者の言葉や焼け焦げた衣類、原爆投下直後の街の姿や投下の背景などの展示がありました。たくさん衝撃的な資料を見て、戦争の恐ろしさを肌で感じました。

今回の広島派遣事業で、一番印象に残っているのは、八月六日の平和記念式典に参列したことです。こども代表の言葉が強く心に残りました。

「一人一人が相手の話をよく聞くこと」「仲間と協力し、一つのことを成し遂げること」

まさに私たちにもできる平和への一歩だと思いました。いろいろな国から人が集まっているのを見て、唯一の被爆国である日本が、この悲劇を世界へ伝えていく必要があると実感しました。平和な世界が実現するようできることから積極的に行動しようと思います。

広島での経験を生かすために

磐田北小学校 鈴木 遥太

磐田北小学校では、毎年平和学習をします。僕も六年間戦争や平和についてたくさんのことを学んできました。そして、広島に行きたいという強い気持ちを持ちました。

原爆ドームや平和記念資料館には、写真や絵だけではなく、もともときれいだったビンやかわらが、つぶれたり焼けたりした状態でかざられていました。他にも目を疑うような物がいくつもあり、恐怖心を抱きました。現地のガイドさんから、原爆ドームはこわす予定だったと聞き、おどろきました。戦争や原爆のおそろしさを伝えるために必要な建物だと思ったからです。また、ガイドさんが被爆者の説明をしたときに使った「生き残ってしまった。」という言葉にしようげきを受けました。たった一つしかない命が助かったのに、どうしてだろうと思いました。説明を聞いていくうちに家族や友達が亡くなってしまい、悲しい思いをしたからだろうと思いました。

平和記念式典では、広島県の小学六年生のスピーチを聞いてとても感動しました。スピーチの中の「願っているだけでは平和は訪れない。」という言葉が胸にささりました。それを聞いた時、ぼくも「考えているだけではだめだ。どれだけ小さなことでも行動してみよう。」と思いました。

元々戦争はおそろしいこと、やってはいけないことだと思っていました。しかし、今回の経験を通して、戦争は、人の

命だけでなく、夢やこれからの暮らしなども簡単にうばってしまうおそろしく、悲しいことだと改めて感じました。この思いを忘れずに世界が平和になるように行動していきたいと思います。まず、僕にできることは、この広島での経験が自分だけのものにならないように、見たこと、聞いたこと、感じたことを身近な人たちに伝えていくことだと思います。そして、みんなで平和な世界をつくっていききたいと思います。

桜や人が思いをつなぐ

磐田中部小学校 引馬 蒼

私の通っている小学校にも被爆桜があったなんて、事前学習で初めて知った。広島へ行く前に実際に見に行くと正門の脇に緑の葉をつけていた。生徒と先生方、合わせて三百二十八名が原爆の犠牲になった安田女子高等学校の元正門前にも、被爆桜があった。この被爆桜は、平均寿命を超えても未だに花を咲かせていて、生命力と磐田とのつながりを感じた。桜は「希望」「喜び」の思いが込められ、六十一校七十七本の苗木が送られ全国に広がっている。桜の存在と生徒の思いに感動した。

広島平和記念資料館では、金属が溶け、ガラス瓶がつぶれ、ボロボロになった自転車があった。私たちぐらいの子が乗っていたのかもしれない。熱い、苦しいと聞こえてきそうな放

射線や熱線の被害の写真は直視できなかった。それでも、ボランティアさんの話は、体験したことや原爆が空中で爆発し、被害が広範囲になったことなど、怖さと怒りを感じました。

平和記念式典には、たくさんの方の人たちが参列し、一同に黙とうしている時、平和や犠牲者への思いが一つになったと感じた。しかし、今でも戦争はなくなり核兵器が存在している。平和への誓いで、

「本当にこのままでよいのでしょうか。願うだけでは、平和はおとずれません。」

と聞き、はっとしました。考えてみると、まずは、相手の話を聞き相手を認めること。違う意見になった時、理由を考えたりほかの人の協力を求めたりすること。自分以外のことに

も関心を向けることが大切だと感じた。
今回広島に行つて、日常が平和だと帰って家族に会つて思った。被爆者以外でもたくさんの方がボランティアをしていた。一人の力は小さいかもしれないが、一人ひとりが意識することですみんなの力となり、核兵器のない平和の世界を目指したい。

小中学生派遣事業に参加して

磐田市立磐田西小学校 鈴木 潤

私は、平和記念式典小中学生派遣事業へ参加させて頂き、

多くの事を学び、多くの事を考えました。その中で心に残ったことを書きたいと思います。

まず、一日目に行つた平和資料館でまのあたりにした、悲しい事実です。平和資料館では、多くの被爆者の人の写真や原爆の様子、被爆者の言葉が展示されていました。頭では、どんなことがあつたのか分かつていたはずなのに、実物を見ると、とても悲しかった。日本は、被爆したのにテレビで事実の全てを映さない。胸が苦しくなりました。そして、これは絶対にみんなに伝えなくてはと思いました。学校のクラスでは、ことあるごとにけんかになります。けんかが国家ごとになったのが戦争です。戦争は絶対にあってはいけない事だと重く感じました。話し合う事の尊さを皆に伝えたいです。

最後に、平和式典には世界中の人が参加していました。参加国の中には、核を持つ国がありました。その国の人たちは何を考え、式典に参加しているのか疑問に感じました。平和式典では、平和を実現し、非核を願います。しかし、現実には核を持っているのに平和を願うのです。全ての国が核を持たず戦争はしないと決めれば、平和になると思うのは私だけなのでしょうか。平和は形だけで実現するのでしょうか。こんなにも戦争はしてはいけないと呼びかけているのに、世界では大きな戦争が二つも起き、人が亡くなっている。悲しい今をもっと皆で考えていきたいです。派遣事業は、一人のひととして全ての人が形だけではない平和を願い、平和があたり前にある世の中になってほしいと心から感じる時間となりました。

平和記念式典に参加して

磐田南小学校 疋田 真桜

平和記念式典は、私が感じたことのないおそかな雰囲気
で緊張しました。式典で心に残ったことは、こども代表の「平
和への誓い」の中の『一人一人が相手の話をよく聞くこと』
『違いを良さと捉え、自分の考えを見直すこと』『仲間と協力
し、一つのこと成し遂げること』という言葉です。広島は、
「七十五年間は草木も生えず」といわれていたそうです。今
の広島駅前には、高いビルがたくさんありました。平和記念
公園には、原子爆弾が近くに落ちたはずなのに自然豊かでし
た。人が磐田市の何倍もいてびっくりしました。そんな大き
な都市になったのは、『仲間と協力し、一つのことを成し遂げ
ること』があつたからだと思いました。参加する前は、学校
の代表として上手くやっていたのか不安でした。その不安の
一つとして自分から話しかけるのが苦手なので友達ができる
かどうかというのもありました。参加してみても原爆のこと、
安田女子高校のひばく桜のことなどを学ぶと共に友達を作る
こともできました。友達とは、戦争や原爆などの楽しい会話を
したりすることができました。また、私が軽い熱中症になっ
てしまった時も、声をかけてもらいました。うれしかったし、
みんなに追いつけるように、学びたいと思いました。友達が
できると、うれしいし、やさしい気持ちになります。だから、
友達は大切だと思いました。私は、一人一人が友達をたくさ

ん作って信頼関係をきづいていけば、争いはなくなり平和な
世界に近づくと思います。これから、この経験を生かして南
小学校だけでなく他校にも友達を作っていきたいです。新し
い友達を作ることがまだ苦手に感じてしまいましたが、学校の
みんなにも私の意見を伝え、みんなと友達作りができたらい
いと思います。

私達の手で平和にする

東部小学校 辻 一花

私は、広島で戦争について学び、今の幸せな生活が当たり
前ではないことをあらためて実感しました。私は原爆が落と
された時代に生きていたわけではないから、被爆者の苦しみ
や悲しみが完全に分かりはしないけれど、被爆者がだんだん
といなくなってしまう今、今度は私達自身が次の世代
の人たちに戦争の残酷さ、平和の大切さを語り継いでいか
なければいけないと思いました。

私は、八月六日の平和記念式典で加藤晶さんが言った

「願うだけでは、平和はおとずれません。色鮮やかな日常を
守り、平和をつくっていくのは私たちです。」

という言葉に、はっとさせられました。確かにその通りだ
とおもいました。私は今までに「世界が平和になりますように」
というお願いをしたことがあつたけど、それだけで世界から

核兵器がなくなるわけではないので、実際に行動に移すことが重要だと思いました。

私にはまだできることが限られているけれど、まずは、「ひとりひとりのちがいを個性と認め合い、お互いの意見を尊重する。」という小さなことから始めて、いつかは世界を本当の平和にしたいです。

平和へ

大藤小学校 山田 悠翔

戦争とは何なのか、原爆って何だろう、僕は広島に行くまで知りませんでした。

最初に訪れた安田女子高校では、被爆樹木のことを聞きました。被爆樹木とは爆心地から約二キロにあり、原爆投下前から生えていた樹木のことです。ここではこの被爆樹木の苗木を作り全国各地に平和について考えてもらうために苗木を送る活動をしています。磐田市には、かぶと塚公園に被爆桜があります。

平和記念公園では、原爆について、アメリカ軍は原爆の威力を見たいため、まだ攻撃されていない街を挙げ、その中の一つに広島がありました。七十九年前の八月六日、広島のお天気が快晴で投下目標の丁字の橋がよく見えたため広島に投下されました。世界で初めてでした。

資料館には被爆者の思いや灰色になった広島の写真などがありました。原爆の恐ろしさや悲惨な残酷さを感じ、僕はとても辛くて見てられませんでした。

式典では色んな国から人が集まり、原爆投下があった八時十五分に、もくとうをし、改めて二度と戦争を起こしてはいけなと思います。こども代表の言葉で「願うだけでは平和はおとずれません」が僕の心に残りました。

世界では今も戦争をしている国があります。どんな理由や目的があつたとしても、多くの人々の悲しみを生む戦争はやつてはいけなと思います。願うだけでは本当に平和はおとずれないです。当たり前に「飯が食べられる、友達と遊べる、この当たり前がとても幸せなこと」で平和な生活であるから今は出来ることだけど平和は当たり前にあるものではない、みんなの努力によって保たれるものだと思います。今の生活に感謝して、ケンカをしない、人の意見をしっかりと聞く、人が喜ぶこと、笑顔になれること、お互いを思いやる心を持ち仲良くすること、それが出来ればきっと平和へと広がっていくと思います。

ヒロシマから教わったこと

向笠小学校 馬淵 菜希

平和学習での私のめあては、「本やインターネットなどでは

学べないことを、自分の目で見て聞いて体感してこよう」でした。実際に平和記念公園へ行つて原爆ドームや原爆の子の像、平和記念資料館へ行き、被爆した人達の当時の様子や思いはとても残酷でした。悲惨なあの日の出来事は、私も絶対に二度とあつてはならないことだと思います。平和記念式典では、広島市こども代表者が発表していた誓い、「願うだけでは、平和はおとずれません。色鮮やかな日常を守り、平和をつくっていくのは私たちです。一人一人が相手の話をよく聞くこと。『違い』を『良さ』と捉え、自分の考えを見直すこと。仲間と協力し、一つのことを成し遂げること。」この三つのことが私たちにもできる平和への一歩だと学びました。このことを、向笠小のみんなに伝え、行動したいです。世界に核兵器がある限り燃え続ける「平和の灯」の火ができるだけ早く消えること、つまり世界から核兵器がなくなることを願って生活したいです。

また安田女子学園へ行き被爆樹木を見て、被爆したけれど今でも元気に生きている桜の木は、「希望」や「喜び」をみんなに伝えてくれていると思いました。被爆桜の苗木は、広島市の生徒達が研究を重ね、十一年間で六十一校七団体に寄付したそうです。磐田市には六本、かぶと塚公園や向陽中などに寄付されています。私も被爆桜がつかないでくれた「縁」を大切にしたいと思います。この二日間であても達成することができたので良かったです。

最後に、今回広島派遣に参加させてもらえたことを学校みんな、市長、市役所の方々、一緒に行った仲間、家族に感

謝したいです。ありがとうございました。二日間仲間と楽しく平和について学ぶことができ、思い出に残る活動となりました。これからも学び続けたいです。

平和のためにできること

長野小学校 西川 葵

「願うだけでは、平和はおとずれません。色鮮やかな日常を守り、平和をつくっていくのは私たちです。」これは広島平和式典でのこども代表の言葉です。私はこの言葉を聞いた時にハッと思いました。平和でありますようにと願っているだけではダメだということ、何もしなければ何も変わらないということに強く共感しました。

訪ねた安田女子高等学校では、聞かせてもらったアオギリの歌の中の、「広島のがいはただひとつ。せかい中のみんなの明るい笑顔。」という歌詞に心を打たれました。平和な日常は当たり前のことではなく、意思をもって作っていかなくてはならないと思いました。また、安田女子高等学校からいただいたという被爆桜の苗木がかぶと塚公園に植樹されていますので、たくされた想い、感じた思いをわすれないように時々足を運びたいです。

その後を訪ねた原爆資料館では、展示されている資料や写真を通して、たった一発の爆弾でこれほどまでに街が破かい

され、多くの人々が苦しんだ、今なお苦しんでいるという事実にもねが苦しくなり、言葉が出ないほどのしよげきを受けました。そしてあらためて命の大切さ、生きることの喜び、平和のありがたみを強く感じました。

これからの世界を作っていく一人として、今回の経験で学んだ戦争や原爆のおそろしさと平和の大切さを、周りに伝えていかなければならないと思っています。そして平和を願うだけではなく、相手の心を思いやること、ちがいを理解して受け止めること、感謝の気持ちを伝えることなど、普段の生活の中で平和のために自分ができることを実行していきたいです。こうしたことの積み重ねがこれからの平和につながっていくと思います。

広島へ行った時の感想

岩田小学校 河野 颯太

ぼくが広島へ行って見たり聞いたことは、まずは安田女子高等学校です。学校は、最近場所を変えたらしく学校は何を見ても新品でびつくりしました。一番おどろいたことは被爆桜です。被爆桜は、爆心地から二百十メートル離れていて、今でも元気に花を咲かせるそうで、その姿から元気をもらいました。安田女子高等学校は原爆の日、生徒や先生も含めて、三百二十八人の命が奪われました。全体的にも

大きなひがいがあいついだ広島は今ものすごく発展しておどろかされました。

次に行ったのは、平和記念公園です。平和公園では、原爆の子の像や、原爆供養塔、被爆樹木アオギリなどがあって、ほとんど平和などにかんするものでした。こんな公園は初めてでした。相生橋のところでは路面電車が走っていました。路面電車は原爆の日から三日で修復して市民は移動がしやすくなったと安田女子高等学校の生徒さんから聞きました。

次は広島平和記念資料館を見学しました。館内では被爆した人の遺品がたくさんありました。たとえば、金属などの溶融塊や、曲がった自転車、割れた茶碗などがありました。他には、産業奨励館の模型や原爆ドームの模型もあり、比べると原爆の威力が分かって、恐ろしくなりました。壁を見るとマーシャル諸島での核実験などがありました。あとは外国の保有している数も細かく書いてありました。ロシアは四千四百九十個、米国三千七百八個、中国は、四百十個、フランスは、二百九十個、英国は、二百二十五個、パキスタンは、百七十個、インドは百六十四個、イスラエルは九十個、北朝鮮は四十個で、まだ世界では合計九千五百八十七個、核弾頭は平和を脅かす危ない物なので早くなくなって平和な社会になればと思います。

平和の大切さ

田原小学校 川端 京楓

私は、広島に行つて平和の大切さを学びました。平和記念資料館の見学と平和記念式典の参加は私にとってとても印象深い経験でした。

平和記念資料館には被爆者の写真や持ち物が展示されていました。焼け焦げた三輪車、水を求めて亡くなったひどいやけどを負った人、直接原爆の被害を受けていないけれど、放射線によつて何年もたつてから病気になる亡くなった人。展示物だけでなく言葉からも原爆の恐ろしさが伝わってきました。原爆で生き残った子供達もお母さんやお父さん、兄弟を失い、独りぼつちでくつみがきをしたり物を盗んだりして道端で暮らしていたことを知り、私は原爆があたり前の日常をうばってしまったことが分かり、とても恐ろしいと思いました。

平和記念式典では「原爆の恐ろしさについて想像を働かせ、自分に何ができるかを考えることが大切。」というお話に共感しました。私は今まで原爆と聞いてもあまり考えたりすることがなかったけれど、このお話を聞いて、世界から核兵器をなくすためには自分達には何ができるか考え、未来につなげていくことが大切なのだ改めて分かりました。私はこれから広島で学んだことを生かし、自分に何ができるかを考えようと思います。まず、自分にできることは、この経験を身近な人や学校の友達に伝えることだと思いました。

平和

富士見小学校 笠井 百珠

私は今回広島に行くまで、戦争や原爆のことをあまり知りませんでした。それは、関心のないことだったからです。

代表が集まった事前勉強会。私だけでなくみんな戦争や核兵器についてくわしくなかったので少し安心しました。磐田市のかぶと塚公園の被爆桜やさめ島海岸に不時着した緑十字機のこと、広島歴史となぜ原爆が落とされたのかという理由も学びました。

はけん一日目、桜の苗木をくれた高校に行き、お話を聞きました。生きるのをやめずにがんばって、今でも花がさくのはすごいです。そして広島平和記念資料館です。いろいろな展示の中でも原爆で苦しむ人々の写真はかわいそうで、私は目をつぶってしまいました。写真のしやうげきが強すぎて今でもはつきり覚えています。また焼けた三輪車や絵など黒や灰色でどれもとても残こくで、今の美しい広島からは想像できません。戦争と原爆はとてもこわいです。

二日目は平和記念式典。たくさん外国の代表が参列していておどろきました。同時にとてもうれしくなりました。出席している国の人達はみんな平和と核兵器廃絶を考えているからです。そして、こども代表の平和の誓いに感動しました。「平和はとても大切で、とても尊いもの」「願うだけでは平和はおとずれません。色鮮やかな生活を守り、平和を作っていくのは私たちです。」という言葉です。その通りだと思ったか

からです。

知らないままは幸せかもしれないけれど、体験や見聞きをした人が伝えれば、知らなかった人が関心をもち、考え、行動につながります。

私はこれから広島で学んだことや感じたことをたくさんの人に伝えて、核兵器や争いのない世界にしたいです。

行つて、感じて、見た平和

福田小学校 川野 琴子

一九四五年、八月六日、午前八時十五分、広島の晴天に少し大きな火の球が現れ、そのせん光と共に、熱線と爆風、「ドーン」というにぶい音が地上に行きわたり、一瞬で広島は、灰になる、そんな世界を私は、心の中で見ました。「戦争は二度とやってはいけない。」それはただのきれいな事ではなく、しんのある理由の基での言葉です。

私が感じたその言葉の理由、一つ目は「戦争はだれも幸せにならない」ということです。一見、勝った方の人々は、幸せになりそうですが、それはただ「戦争が終わって、もうあぶない目を見なくてすむ。」という戦争の終わりに対する安心感です。なので、戦争をしている最中によるこぶ人などだれもいません。

二つ目は「戦争は一度始まると、終わらない。」ということ

です。戦争はたとえ終わったとしても、きれいさっぱりは終わらずに、やがて、敗けた方の苦しみ、勝ったけれど暮らしはよくならないという不満は、にくしみやうらみになって、また戦争になります。つまり、戦争は、終わりがなくなってしまうのです。

まだ、終えません。まだ、終えられません。ヒロシマを考えること、本当の平和を願うこと。核がなくなるまで、本当の平和ができるまで。

平和への思い

豊浜小学校 片井 美咲

私は広島市の七十九回目の平和記念式典に参加しました。そこには原爆で被爆した、佐々禎子さんの像の前の千羽鶴、参列した百カ国以上の人たち。「平和」への気持ちが一つになった瞬間でした。広島市長の「世界中が平和でなければならぬ。」という言葉が心に残ります。「どうしたら、世界が平和になるのか。」と考えました。

これまで学校の国語の教科書でしか戦争の話を学んだ事になかった私は、広島平和記念資料館で見た写真、被爆した物、そしてボランティアの方のお話を聞いて戦争や原爆は本当に恐ろしいものだと思いました。人がドロドロに溶けている写真やボロボロの三輪車を見て何十万人の人の命を奪い、たく

さんの日常が奪われました。

安田女子中学高等学校には、被爆桜があります。被爆をしたにもかかわらず、芽をふき返し七十九年以上たった今でも元気に咲いています。この被爆桜の前に小さな女の子が桜に向かつておじぎをしていました。この姿を見て広島の人たちがこの桜に対する思いの強さがわかりました。

私はかんごしになるのが夢です。多くの人に命の大切さ、平和への思いを伝えていきたいです。

今でも七十九年前の日本と同じ様に罪もないたくさんの方の日常が奪われ苦しんでいます。武力ではなく話し合う事で解決できる世界になっていく様に自分のことから実感していきます。

広島のパイセン事業で知ったことと感想

竜洋東小学校 牧 剣芯

ぼくは、このパイセン事業を通して、命の尊さ、戦争・原爆のひさんさ、そして平和の大切さを学びました。

まず、原爆（原子爆弾）とは、とても強力な核爆弾の一つであり、「リトルボーイ」という原爆が、一九四五年八月六日午前八時十五分に落とされ、爆発しました。三千〇四千度の熱線と爆風で、何もかも、燃えて、とけて、ふきとばされたそうです。爆心地という原爆が落ちた場所のすぐ近くのデパ

ートは、ひがいを受けたが、レンガ、コンクリートと多くの窓により、今も一部が残っていて、世界遺産になっているものが、名称「原爆ドーム」です。

一日目、実際に広島に行つて、まず安田女子高等学校を訪問しました。旧校は原爆でくずれ、多くの生徒と先生が亡くなつたそうです。今の校舎は別のところにあり、大きくて立派だと思いました。桜があり、この桜は、原爆に被爆しても生きている「被爆樹木」の一つの被爆桜でした。そして、この桜を全国に贈る活動をしているそうです。この桜は磐田にも贈られ、今も各地で花を咲かせています。次に平和記念公園に行きました。目で見える原爆ドームはとても大きかったです。そして平和記念資料館（原爆資料館）に行きました。原爆やその後の町の写真や被爆者の苦労や遺品がありました。見てとても悲しくなりました。他にも平和の灯や平和の鐘や原爆の子の像がありました。

ホテルにとまって二日目。朝早くに平和記念公園に行き、平和記念式典に行きました。首相などえらい人も大勢来て、もくとうをしたり歌を歌ったりしました。そして帰りました。この二日間、本当にたくさんの方の事を学びました。この事を二度とくり返さないため、色々な人に伝えていく必要があります。ぼくも学校の人達に伝えていきたいと思っています。

広島とリトルボーイ

竜洋西小学校 神田 尚輝

ぼくは、広島のア田女子高等学校や平和記念式典などに
き、あらためて戦争の恐ろしさや広島の方々の思いなどを
知ることができました。

安田女子高等学校では、ひばく桜やリトルボーイの話など
を聞きました。ひばく桜とは爆心地から二、一キロメートル
以内に咲いていた桜のことで、安田女子高等学校では、この
桜をなくさないように、苗木を全国の公園や学校にあげて植
えてもらっている聞いて、ぼくは、そのひばく桜とおし
て、戦争の恐ろしさを伝えているのだと思いました。

平和記念公園では、ガイドの人に色々な話を聞きました。
例えば、原爆が七十九年前におとされたのにもかかわらず、
原爆ドームは補強作業のおかげで、まだ残りつづけているな
ど話を聞きました。その話のなかでぼくが、とくに心に残
ったのは、原爆ドームをはじめ、こわそうとしていましたが、
一人の青年が後世につないでいくようにしようと言ったので、
今まで原爆ドームが残っているんだと聞いて、このような
人がいたから、あれいこう戦争が起きていないんだと思いま
した。

一発の核兵器のせいではなくさんの人々がぎせいになっ
てしまったけど、けつきよくは、人間が作り、人間の意志で落
したのだから悪いのは人間であって、核兵器ではないことを
心に残しながら生活していきたいです。

平和とは何か

竜洋北小学校 日内地 聡汰

僕は、この広島に行って重要な経験をたくさんしました。
それは、かつて灰色の世界となってしまった原爆ドームなど
を見て実際に感じることもできました。僕は、二日間を通し
て、広島は原爆が落とされたのにも関わらず発達しているな
と思いました。

安田女子高等学校に行って生徒会の人たちが原爆の恐ろし
さや被爆桜のことについて教えてくれました。被爆桜は、被
爆した桜の木の中で、実際に触ってみたらボコボコしている
ところやザラザラしていると多く、模様も僕が見る桜の
模様より大きく普通の桜と違うなと思いました。原爆ドーム
では、ボランティアの方々が原爆ドームの最初の形を見せて
くれました。原爆ドームは、一瞬にして壁などが吹き飛んで
しまっていて原爆の強さを感じました。丸いドーム型の部分
は銅できていて一瞬で溶けてしまったそうです。原爆が落
とされた広島は歴史について学ぶにつれて、原爆が落とされ
た当時のみんなの気持ちを考えると悲しい気持ちでいっぱい
になりました。またこれがおきないように平和で安全なまち
づくりを考えていきたいです。それには、世界中が笑顔でい
ることがとても大切な平和への一歩だと思いました。

ぼくと広島

豊田南小学校 田中 湊徠

ぼくは、広島では原爆のおそろしさを知ることができました。

まず一つ目は、平和記念資料館です。当時のおそろしさがひと目で分かるような画像、当時から残されている物など、ぼくは言葉では表せませんでした。話を聞いただけでもおそろしいからです。けれど、じつさいに見て、当時このようなことがおきているのに悲願だが、被爆されたかたたちの思いがよく伝わりました。

二つ目は、安田女子高校です。「被爆桜」というものを教わり、被爆されたのは、人だけではなく、植物も同じように、被爆していました。植物の木が曲がってしまうほど、原爆のおそろしさを目にしました。かくへいきのことや、広島のことなど、七十九年前のつらさをよく感じることができました。

三つ目は、平和記念式典です。被爆三世の人達がつらそうな顔をしながら進んでいく式典では、岸田さんがこう言いました。

「広島でなぜ原爆が落とされたのか。」

と言いました。ぼくはその言葉に共感しました。なぜ広島なのか、など式典のやる意味などがよく分かりました。

このようにぼくは、この期間をとおして、平和への気持ち、向き合い方など、そして、感謝をおそわりました。このよう

な機会をくださり本当にありがとうございました。

平和を実現するためには

豊田北部小学校 佐藤 祐

「平和を実現するためには」それは広島に行って体験し、考えたことであり、今後も考えていきたいことだ。僕が広島に到着して最初に見た光景は、とてもきれいな街並みや大きなビルだった。しかし、平和記念公園には当時のままの原爆ドームがあり、原爆資料館には原爆症ややけどに苦しむ人々の写真、八時十五分で止まった時計、ぼろぼろになった三輪車などが展示されていた。僕は今のきれいな広島と、当時の写真の中の光景とが違いすぎて、本当に起こったことなのか信じられない気持ちになった。だが原爆について学ぶほどに、原子爆弾がどれほど甚大な被害を及ぼし、人々を苦しめ続けたものなのかということを知り、とても恐ろしくなった。

特に印象に残っているのは、資料館にあった放射線を帯びた黒い雨を飲む少女の絵と、その絵に寄せられていた「くろいくろい雨 大きなつぶの雨 空にむかって 口を 大きくあけました からだ中が あつくて あつくて 水がほしかったのです」という言葉だ。僕はこの絵が、普通に暮らす市民まで巻き込んだ原子爆弾は、非人道的で絶対にあってはならないものだということを強く訴えかけてくるように感じ

た。平和記念式典では、「願うだけでは、平和はおとずれません。色鮮やかな日常を守り、平和をつくっていくのは私たちです。」という平和への誓いの言葉が心に残った。僕はこの言葉を聞いて、今まで「戦争をしてはならない」という言葉を、特に深い意味も考えず覚えていたが、平和を実現するためには、一人一人が平和に対する考えと「今、自分に出来ることは何か」という意識を持つことが大切であると思った。この経験を忘れず、これから、まわりの人と平和の尊さ、命の重みについて語り合っていきたいと思う。

平和の大切さ

青城小学校 大野 匠太

「それは ずーっと ずーっと前の ある夏の 苦しく
いやな思い出」

これは、僕が広島に行く前に読んだ「本田千年（ほんだちとし）」さんという長崎で被爆した方が書いた被爆体験記の言葉です。この体験記は昭和六十一年に書かれ、すでに三十八年がたっています。被爆者の高齢化が進んでいく中、僕は原爆のことを授業などでしか知りませんでした。そんなときこの体験記を読み、原爆でどんなことがあったのかを見に行きたいと思いました。

広島に行って最初に見たのが被爆桜。その名のとおり、被

爆しても生き続けている桜でした。この桜は被爆して平均寿命を超えても力強く生きていることで、多くの被爆者を元気づけたそうです。

その後、原爆資料館に行きました。最初の部屋では原爆が落とされる前の広島の写真が展示されており、そこには被爆する前の原爆ドーム、たくさんの人が行き交うにぎやかな商店街、平和な街。次の部屋に行くと八月六日八時十五分で止まった時計の絵、前の部屋では平和だったはずの街が一瞬にして瓦礫の山になっている写真が展示されていました。その写真は、原爆の効果を確かめに来たアメリカ兵が撮ったそうです。「原爆の効果」とは、あまりにも残酷な言い方だと思います。皮膚がないまま川に落ちて死んでいく人々。病院では未知の放射線物質で毎日火葬の日々。被爆者は言います。「あのときの広島は地獄だった」「希望を失っても生きるしかなかった」と。

千年さんの体験記に「平和ほど大事なものはありません」という一文があります。僕も広島に行き、平和の大切さを強く実感しました。願うだけでは何も変わりません。被爆者の思いを無駄にしないために、平和を守っていくのは僕たちです。

平和のために私たちができること

豊田東小学校 宮城 結衣

「願うだけでは、平和はおとずれません。色鮮やかな日常を守り、平和をつくっていくのは、私たちです。」

これは、広島平和記念式典での平和の誓いの言葉です。私はこの言葉を聴いて、これまでの自分の平和に関しての考え方に茫然自失してしまいました。願えばきっと平和は実現する、誰かが何らかの方法で平和は現実化する、と思っていた自分とは異なり、これから平和な日常を守り、つくっていくのは私達だと、強い信念があるその言葉は平和を願う沢山の人々が感銘を受けたと思います。

広島平和記念公園や資料館で見た展示物からも驚愕させられました。原爆が投下され、酷い火傷を負った人や、放射線の影響で重い病にかかった人、明日共に過ごすはずだった大切な人を失ってしまった人。笑顔溢れる明るい広島のは、たった一発の爆弾によって絶望の涙で埋め尽くされ、灰色の町に変わってしまいました。皆悲しみに暮れ、生きるのに一杯でしたが、また昔のような生き生きとした平和な世界を取り戻そうと、生きることへの喜びや希望を広げようと、広島の人々は平和の尊さを訴える活動を始めました。原爆ドームの保存活動や、被爆桜の苗木活動、原爆の子の像を建てるなど、未来の平和のために全力を尽くしました。次は私達の番です。未来の平和な世界を創るのは私達です。私達が今、平和のためにできる事、それは、相手の話をよく聴く事、人

との「違い」を「良き」として認め合うこと、そして互いに尊重し合う事。小さな事です。私達にも世界平和実現のためにできる事があります。つまり、平和のために行動を起こすことは、平和への第一歩を踏み出す事に繋がるのです。私は、世界平和実現のために、どんな小さなことも努力して行動しようと思心から決意しました。

平和を願って

豊岡南小学校 清水 智咲

私は、原爆でどんなことが起こったのか、知っているつもりでした。しかし、その実態は、私の予想をはるかに超えるものでした。

七十九年前の八月六日、たくさんの人で賑わっていた広島が、一発の原爆を落とされたことによって、むこうの島の山が見えるぐらい、何もなくなってしまうた、そう聞いたとき、私は今まで感じたことがないくらいの衝撃を受けました。

さらに、平和記念資料館では、水を求めて川面で亡くなった人々の山の絵、皮膚がただれて人間の形にとどまっていな人々の写真、足の一部がもぎとられた人の姿もありました。進むたびに、私は心がしめつけられ、見るのが辛くなってきました。思わず顔をそむけてしまった時もありました。

そして、平和記念式典の「平和への誓い」で、私と同じ六

年生はこう述べました。『違い』を『良さ』と捉え、自分の考えを見直すこと。私たちにもできる平和への一歩です。』

私はこの言葉がとても印象に残りました。平和のために、「違い」を「良さ」として捉えれば、差別や喧嘩は減るでしょう。この言葉を心に刻み、二度と、戦争や原爆による惨劇が起きないように、今回の体験により学んだ、核の恐ろしさ、それから平和の大切さを周りの人に伝え、平和への思いを継承していきたいです。

私にできる第一歩

豊岡北小学校 六年 大西 香歩

私は広島を訪れる前、世の中は平和であるべき、戦争をくり返してはいけない、と思っていた。しかしそれだけでは足りない。安田女子高等学校での話と平和への誓いを聞いて気づくことができた。

安田女子高等学校には「被爆桜」があり、それは今でも枝を広げ、春には大きく花を咲かせるそう。そして、そこではその苗木を配る活動をしている。この活動を始めて十一年で計七十七本の苗木と希望を贈ったと言っていた。これは生徒たちが自主的に始めたものだ。と聞いて私は感銘を受けた。自分たちで平和への強い想いを受け継いでいることと苗木を贈り続けるその行動力がすごいと思ったからだ。私はこの活

動をもっとたくさんの人に知ってもらいたいと思った。

平和記念式典では、同じ年の子の平和への誓いを聞いた。その中の「願うだけでは平和は訪れません。平和をつくっていくのは私たちです。」という力強い言葉に心を動かされた。平和を願うべきだという私の考えは、ここで私たちが平和をつくっていくのだという考えに変わった。

戦争を経験した人々の願いは世の中が平和であることだと思う。特に日本は世界で唯一の被爆国であり、原子爆弾の恐ろしさや戦争の苦しみをよく分かっているはずだ。だが日本もただの被害者ではなく、他国に被害を及ぼしてしまったことも事実。だから自分たちがしたことから目を逸らさず、傷ついた人、傷つけてしまった人がいるということを伝え続けるのがこの国に生まれた者としての使命だと思う。その第一歩としてまず私は広島でのこの経験を友達に話したい。加えて実際に平和記念公園などを訪れることも勧めようと思う。実際に訪れることで感じる必要があるから。私自身も家族と一緒にもう一度広島に行き、平和について共に考えたいと思う。

令和6年度 広島平和記念式典小中学生派遣事業感想文

令和6年9月吉日発行

発行 磐 田 市

静岡県磐田市国府台3-1
磐田市総務部総務課 総務グループ
TEL 0538-37-4803